

2021 年度理事会, 学術評議員会ならびに社員総会における報告承認決定事項

2021 年 5 月 20 日～22 日に石川県金沢市にて開催が予定されていた第 64 回日本糖尿病学会年次学術集会は, 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響により通常の開催に代えて WEB により開催された。

定例理事会は 5 月 23 日に WEB により開催された。

学術評議員会は一堂に会しての開催は行わず, 各付議事項に対して「MyPage」から決議事項への賛否および会長選の投票を行った。5 月 31 日～6 月 3 日の 4 日間を回答期間とし, 有効期間内における回答をもって今回の学術評議員会に出席したと見做すこととした。

定時社員総会は 6 月 20 日に WEB によりされた。また, 期日前に各付議事項に対して「MyPage」から議決権の行使が行えるようにした。

1. 2020 年度事業報告および庶務報告

●事業報告

1. 第 63 回年次学術集会

会 長 前川 聡 (滋賀医科大学)

会 期 2020 年 5 月 21 日 (木)～23 日 (土) で
の開催予定であったが, 新型コロナウイルスの影響により 2020 年 10 月 5 日
(月)～16 日 (金) に変更した。

会 場 WEB 開催で実施 (びわこ大津プリンス
ホテルにて 10 月 9 日～11 日にライブ開催)

参加者 10,692 名

○会長講演

○理事長声明

○学会受賞講演

ハーゲドーン賞: 臓器間神経ネットワークによる
個体レベルの代謝調節と糖尿病

リリー賞: 脂肪酸伸長酵素 Elovl6 によるエネルギー代謝制御機構と糖尿病における病態生理学的意義に関する研究
肥満 2 型糖尿病における脂肪組織 M1/M2 マクロファージの役割

女性研究者賞: ヒトゲノム解析研究による 2 型糖尿病および糖尿病合併症の病因解明と新規治療法探索

○特別講演 New Biology of Type 2 Diabetes

○特別講演 コホート共同研究の実践とその成果

○緊急特別シンポジウム COVID-19～我が国の現状と糖尿病診療との関わり～

○会長特別企画 SGLT2 阻害薬が臨床にもたらしたものの

○会長特別企画 生活と人生の質の医療学 - チーム医療と糖尿病のトータルケア

○会長特別企画 The eve of the 100th anniversary of insulin discovery～医学・医療に果たしたインスリンの偉大な功績を讃えて～

○シンポジウム

糖尿病診療における循環器疾患の捉え方～基礎から臨床まで～ 他 28 題

○教育講演

1 型糖尿病の病型と診断 他 27 題

○Webinar

STOP! 糖尿病重症化予防対策～多職種連携による糖尿病チーム医療の実践～ 他 48 題

○第 3 回若手研究助成金 成果報告会 8 題

○若手研究奨励賞 審査口演 15 題

○医療スタッフ優秀演題賞 審査口演 15 題

○一般演題 1,638 題 (口演 914 題, ポスター 724 題)

2. 「糖尿病学の進歩」

1) 第 54 回「糖尿病学の進歩」

世話人 古家大祐 (金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科学)

会 期 2020 年 9 月 2 日 (水)～3 日 (木)
オンデマンド配信期間: 2020 年 9 月 14 日 (月)～23 日 (水)

会 場 WEB 開催で実施

参加者 4,911 名

2) 第 55 回「糖尿病学の進歩」

世話人 斎藤重幸 (札幌医科大学保健医療学部看護学科)

会 期 2021 年 3 月 5 日 (金)～6 日 (土)
オンデマンド配信期間: 2021 年 3 月 5 日 (金)～15 日 (月)

会 場 WEB 開催で実施

参加者 3,813 名

3. 地方会活動

1) 第54回日本糖尿病学会北海道地方会

会 期 2020年11月8日(日), オンデマ
ンド配信: 2021年11月15日(月)
まで

会 場 WEB開催で実施

会 長 斎藤重幸(札幌医科大学保健医療学
部看護学科)

参加者 704名

2) 第58回日本糖尿病学会東北地方会

会 期 2020年11月7日(土)~16日(月)

会 場 WEB開催で実施

会 長 片桐秀樹(東北大学大学院医学系研
究科糖尿病代謝内科学分野)

参加者 809名

3) 第58回日本糖尿病学会関東甲信越地方会

会 期 2021年1月30日(土)~31日(月)
Web学会配信サイト公開期間: 1
月30日(土)~2月26日(金)

会 場 WEB開催で実施

会 長 弘世貴久(東邦大学医学部内科学講
座 糖尿病・代謝・内分泌学分野(大
森))

参加者 2,740名

4) 第94回日本糖尿病学会中部地方会

会 期 2020年9月19日(土)~20日(日)

会 場 長良川国際会議場, WEB(ライブ
配信)とのハイブリッド方式で実施

会 長 堀川幸男(岐阜大学大学院医学系研
究科 内分泌代謝病態学)

参加者 1,475名

5) 第57回日本糖尿病学会近畿地方会

会 期 2020年10月17日(土)~31日(土)

会 場 WEB開催で実施

会 長 下村伊一郎(大阪大学大学院医学系
研究科内分泌・代謝内科学)

参加者 1,735名

6) 第58回日本糖尿病学会中国・四国地方会

会 期 2020年10月23日(金)~11月8日
(日)

会 場 WEB開催で実施

会 長 村尾孝兄(香川大学医学部 内分泌
代謝・先端医療・臨床検査医学)

参加者 810名

7) 第58回日本糖尿病学会九州地方会

会 期 2020年10月16日(金)~17日(土)
オンデマンド配信期間: 2020年10
月16日(金)~26日(月)

会 場 WEB開催で実施

会 長 濱口和之(社会医療法人三愛会 大
分三愛メディカルセンター 糖尿病
臨床研究センター長/大分大学名誉
教授)

参加者 1,621名

4. 年次学術集会・糖尿病学の進歩・地方会の管理, 運営

本学会が主催する年次学術集会の運営を一元的に管
理し, 財政負担を削減するために年次学術集会の運営
に関して日本コンベンションサービスと長期契約を行
い効率的な運用に努めている。また, 糖尿病学の進歩
および各地方会においても準備状況を適宜報告して頂
き学会事務局でまとめている。

5. 支部長会活動

2021年3月7日にWEB開催にて第9回支部長会が
実施された。

6. 分科会活動

1) 第35回日本糖尿病合併症学会(第26回日本糖尿 病眼学会総会と併催)

会 期 2020年12月7日(月)~21日(月)

会 場 WEB開催で実施

会 長 古家大祐(金沢医科大学 糖尿病・内
分泌内科学)

参加者 1,582名

7. 出版事業

1) 会誌「糖尿病」第63巻4号, 第63回年次学術集 会抄録号~第64巻3号まで, 13回発行

会誌「Diabetology International」Volume 11・
Number 2-4, Volume 12・Number 1, 4回発
行

2) 糖尿病患者向け指導書

①糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版
80,000部発行

②糖尿病治療の手びき 2020 改訂第58版
30,000部発行

③糖尿病性腎症の食品交換表 第3版
増刷なし

④糖尿病食事療法のための食品交換表CD-ROM版
(ver.4) 増刷なし

⑤糖尿病性腎症の食品交換表CD-ROM版(ver.2)付
き 増刷なし

⑥Food Exchange List 増刷なし

⑦糖尿病食事療法のための食品交換表 活用編 第

- 2 版 増刷なし
 ⑧カーボカウントの手びき 増刷なし
 3) 医師および医療スタッフ向け指導書
 ①こどもの糖尿病・サマーキャンプの手引き 第3版 増刷なし
 ②糖尿病食事療法指導のてびき 第2版 増刷なし
 ③糖尿病療養指導の手びき 改訂第5版 増刷なし
 ④糖尿病治療ガイド 2020-2021 100,000 部発行
 ⑤糖尿病学用語集 第3版 増刷なし
 ⑥糖尿病遺伝子診断ガイド 第2版 増刷なし
 ⑦糖尿病専門医研修ガイドブック 改訂第8版 4,000 部発行
 ⑧小児・思春期糖尿病コンセンサス・ガイドライン 増刷なし
 ⑨糖尿病診療ガイドライン 2019 3,000 部発行
 ⑩糖尿病医療者のための災害時糖尿病診療マニュアル 増刷なし
 ⑪医療者のためのカーボカウント指導テキスト 増刷なし
 ⑫高齢者糖尿病治療ガイド 2018 50,000 部発行
 ⑬高齢者糖尿病治療ガイド 2021 50,000 部発行
 ⑭高齢者糖尿病診療ガイドライン 2017 増刷なし
 ⑮小児・思春期 1 型糖尿病の診療ガイド 増刷なし
 ⑯糖代謝異常者における循環器病の診断・予防・治療に関するコンセンサスステートメント 3,000 部発行
 ⑰総合失調症に合併する肥満・糖尿病の予防ガイド 1,000 部発行

8. 糖尿病週間

2020 年 11 月 9 日～15 日、第 56 回全国糖尿病週間の行事が一斉に行われた。テーマは「サルコペニア・フレイル」、標語は「筋肉量 コツコツ積み上げ 健康長寿」。

9. 国際糖尿病連合会議など

- 1) IDF-WPR Executive Committee Meeting (2020 年 9 月 13 日, 11 月 22 日, 2021 年 2 月 7 日, 2 月 28 日, いずれも WEB 開催) への出席
- 2) EASD 2020 (9 月 21 日～25 日, Virtual Meeting) Associations' Village に学会ブースを出展
 <COVID-19 の影響により、以下は延期となった。>

●2020 年 The 13th IDF-WPR Congress (Shanghai) (The 12th AASD Scientific Meeting と共同開催)

●The 12th AASD Scientific Meeting (The 13th IDF-WPR Congress と同時開催)

●第 9 回 East-West Forum

●日欧交換留学プログラム受賞者の選出

10. 合同委員会など

- 1) 糖尿病腎症合同委員会
- 2) 臓器移植中央調整委員会
- 3) 糖尿病医療の情報化に関する合同委員会
- 4) 糖尿病と癌に関する合同委員会
- 5) 日本肝臓学会・日本糖尿病学会合同委員会
- 6) 日本糖尿病・妊娠学会と日本糖尿病学会の合同委員会
- 7) 高齢者糖尿病の治療向上のための日本糖尿病学会と日本老年医学会の合同委員会
- 8) 日本循環器学会・日本糖尿病学会合同委員会
- 9) 診療録直結型全国糖尿病データベース事業 (J-DREAMS) 合同委員会
- 10) 日本糖尿病理学療法学会と日本糖尿病学会との実務担当者会議
- 11) 日本肥満症治療学会・日本肥満学会・日本糖尿病学会 3 学会合同委員会

11. 普及・啓発・後援事業

- 1) 日本糖尿病協会への協力
 「さかえ」および「つぼみ」発行の企画等
- 2) 世界糖尿病デーへの参加
 「世界糖尿病デー」関連イベントの開催
- 3) 2020 年度糖尿病予防キャンペーン 東日本地区 in 北海道 2020 年 11 月 1 日
- 4) 令和 2 年度「食育健康サミット」Web 2020 年 12 月 10 日～2021 年 3 月 28 日
- 5) 第 12 回「より良い特定健診・保健指導のためのスキルアップ講座」
 生活習慣病改善講習会 Web 2021 年 2 月 14 日

●庶務報告

1. 総会

2020 年 6 月 27 日、東京ステーションコンファレンスにて第 63 回定時社員総会を開催した。2019 年度事業報告、庶務報告、収支決算報告が承認され、また 2021 年度事業計画が承認された。第 66 回会長に西尾善彦学術評議員が選出・承認された。

2. 学術評議員会

2020年6月23日～6月25日に学会HPのMy Page内の所定箇所からの投票により開催された。

3. 理事会

定例理事会は2020年6月13日、12月6日、臨時理事会は2021年3月14日の合計3回、いずれもZoomによるWeb会議にて開催された。

●会員状況報告 (2021年3月31日現在)

1. 役員等

1) 役員

理事 20名 (2019年度末 18名, 2名増)

監事 2名 (2019年度末 2名)

2) 学術評議員 738名 (2019年度末 739名, 1名減)

2. 会員等

1) 名誉会員 38名 (2019年度末 36名, 2名増)

2) 正会員

2020年3月末日会員数 17,636名

2020年度新入会 471名

名誉会員へ -5名

退会 -550名 退会内訳

希望退会 317名

会費未納による資格喪失 194名

物故者 39名

正会員 現在数 17,552名 (84名減)

3) 賛助会員

2020年3月末日会員数 36名

2020年度退会 -4名

賛助会員 現在数 32名 (4名減)

3. 物故会員

名誉会員 後藤由夫 松岡健平 横野浩一

功労評議員 門田一郎 鴨井久司 北室文昭

葛谷信明 久保田奉幸 筒信隆

学術評議員 杉本利嗣

会員 赤井俊洋 安部秀斉 池田悠子 石田祐一

石原昭彦 大橋靖雄 木村英二 木村久美子

木村寿宏 熊谷亮 小池抄代 小林成价

今野敦 篠崎洋 瀬在義則 高石務

高橋康之 竹内昭一 中辻理子 野中卓

野間啓造 波多野雅子 原田隆 平井今日子

藤井一利 堀越大能 松本和也 三谷英介

宮下和也 八幡芳和 吉田昌則 渡辺一敏

(敬称略, 連絡のあった方のみ)

2. 委員会報告および各種報告

〈出版に関する報告〉

1. 「糖尿病」編集委員会 委員長 大澤春彦

1) 今年度の委員会は、コロナ渦の影響で開催せず、審議が必要と判断された論文はメール審議で対応し35回実施した。支障なく審議が出来る状況にある。

2) 委員長は今年度理事改選で理事を退任した大澤春彦委員長の継続を理事長が任命した。

3) 論文投稿状況および採択率

投稿数	原著	症例報告	短報	編集者への手紙	委員会報告
77	22	30	1	1	4

採択	否	採択率
58	17	77% (前年 66%)

4) 出版状況は、第63巻4号から第64巻3号までの12誌とSupplement (第63回年次学術集会抄録集)を刊行した。第63回年次学術集会がオンライン開催であったため、今年度の抄録集の冊子体は作成していない。論文以外に特集や受賞講演原稿、地方会演題抄録も掲載している。

受賞講演・会長講演			Volume Number
ハーグドーン賞	片桐秀樹	臓器間神経ネットワークによる個体レベルの代謝調節と糖尿病	64-1
リリー賞	松坂 賢	脂肪酸伸長酵素 Elovl6 によるエネルギー代謝制御機構と糖尿病における病態生理学的意義に関する研究	64-1
リリー賞	藤坂志帆	肥満2型糖尿病における脂肪組織 M1/M2 マクロファージの役割	64-1
会長講演	前川 聡	第63回年次学術集会会長 縦糸と横糸で織りなす糖尿病学の基礎と臨床 私の糖尿病研究40年	64-1

委員会報告		Volume Number
[糖尿病データベース構築委員会報告] 糖尿病合併症の実態とその抑制に関する大規模観察研究ベースライン時の口腔所見 JDCP study 6		63-4
[食品交換表編集委員会報告] 「食品交換表」編集委員会報告～アンケート調査からみた「食品交換表」の現状と課題～		63-6
[グルカゴン測定法検証のための委員会報告] 新たな測定法によるグルカゴン値は糖尿病病態の把握に役立つ		63-12

5) 特集企画の充実化：特集掲載状況

特集：タイトル	Volume Number
腸内細菌叢と生活習慣病	63-6
糖尿病と肥満度～全ての糖尿病患者が BMI 22 を目指すべきなのか～	63-7
高血糖毒性と組織障害	63-9
糖尿病診療の指針：ガイドラインとの関わり	63-10

2. 「Diabetology International」編集委員会

委員長 羽田勝計

1) 委員会開催状況 本年度は委員会を開催しなかった。

2) 論文投稿状況及び採択率

2021 年 3 月 31 日現在

	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年
Total Submitted	78	95	118	184	45
Monthly average	6.5	7.9	9.8	15.3	15
Total Decisions	65	97	107	164	46
(Accept)	35	41	32	52	14
(Reject)	30	56 (Transfer 1 件)	75	112 (Transfer 1 件)	32
Acceptance Rate	54%	42%	30%	32%	30%

3) 出版状況

2020 年 Vol.11-1～4, 2021 年 Vol.12-1 までを予定通り刊行した。年 4 回 (1・4・7・10 月) 季刊発行をしている。

4) ガイドライン・コンセンサスレポート掲載状況

Title	Volume & Issue
Japanese Clinical Practice Guideline for Diabetes 2019	Vol.11-3
Medical nutrition therapy and dietary counseling for patients with diabetes- energy, carbohydrates, protein intake and dietary counseling	Vol.11-3

5) 委員会報告掲載状況

Title	Volume & Issue
Recommendations on the proper use of SGLT2 inhibitors	Vol.11-1
The work style and living condition survey of diabetologists and the expectations for the Japan Diabetes Society : results of questionnaires about the current state and the future prospect of their carrier in 2017	Vol.11-4
Diagnosis, prevention, and treatment of cardiovascular diseases in people with type 2 diabetes and prediabetes : a consensus statement jointly from the Japanese Circulation Society and the Japan Diabetes Society	Vol.12-1

A large-scale observational study to investigate the current status of diabetic complications and their prevention in Japan (JDCP study 6) : baseline dental and oral findings	Vol.12-1
--	----------

6) 依頼論文

Name (Award)	Title	Article Type	Volume & Issue
X. Jia, Y. Gu, H. High, L. Yu (第 62 回年次学術集会海外招待演者)	Islet autoantibodies in disease prediction and pathogenesis	Review	Vol.11-1
A. Kato, T. Yamauchi, T. Kadowaki	A closer inspection of diabetes-related stigma: why more research is needed	Commentary	Vol.11-2
M.F. Ras-mussen (第 62 回年次学術集会海外招待演者)	The development of oral semaglutide, an oral GLP-1 analog, for the treatment of type 2 diabetes	Review	Vol.11-2
H. Sasaki, N. Kawamura, P.J. Dyck, P.J.B. Dyck, M. Kihara, P.A. Low (第 34 回合併症学会 Outstanding Foreign Investigator Award)	Spectrum of diabetic neuropathies	Review	Vol.11-2
S. Suzuki, Y. Ito, S. Kasama, T. Murata, M. Matsuhisa, M. Kasahara	Ethics and practical mitigations for ongoing clinical trials during the COVID-19 pandemic	Commentary	Vol.11-3
T. Matsuzaka (リリー賞受賞論文)	Role of fatty acid elongase Elovl6 in the regulation of energy metabolism and pathophysiological significance in diabetes	Review	Vol.12-1
S. Fujisaka (リリー賞受賞論文)	The role of adipose tissue M1/M2 macrophages in type 2 diabetes mellitus	Review	Vol.12-1

7) 特集号

『SGLT2 阻害薬』 Vol.11-3

Name	Title	Article Type
H. Watada	Current understanding of the effect of sodium-glucose co-transporter-2 inhibitors in Asian patients with diabetes mellitus	Introduction to Mini-Reviews

M. Kitada, T. Hirai, D. Koya	Significance of SGLT2 inhibitors : lessons from renal clinical outcomes in patients with type 2 diabetes and basic researches	Mini-Review
A. Tanaka, K. Node	Promising roles of sodium-glucose cotransporter 2 inhibitors in heart failure prevention and treatment	Mini-Review

『劇症1型糖尿病発見20周年』Vol.11-4

Name	Title	Article Type
A. Shimada, H. Ikegami	Twenty years since the discovery of fulminant type 1 diabetes	Introduction to Mini-Reviews
T. Hanafusa	Fulminant type 1 diabetes : 20 years of discovery and development	Mini-Review
Y. Kawabata, H. Ikegami	Genetics of fulminant type 1 diabetes	Mini-Review
T. Kobayashi, S. Tanaka, K. Aida	Unique pathological changes in the pancreas of fulminant type 1 diabetes	Mini-Review
Y. Oikawa, A. Shimada	Possible involvement of autoimmunity in fulminant type 1 diabetes	Mini-Review
A. Imagawa, M. Tachibana	Fulminant type 1 diabetes : recent research progress and future prospects	Mini-Review
H. Ikegami, A. Imagawa, A. Shimada	Fulminant type 1 diabetes : nationwide effort to elucidate genetics, etiology, and pathogenesis since 2000	Commentary

8) IF 取得に向けての取り組み

DI の認知度を上げる策として、最新論文やテーマ別の論文を月次メールマガジンで紹介している。また、2020 年から特集号の掲載も開始した。本対策により 2020 年の仮 IF 数値は 2021 年 3 月 1 日時点で 2.684* に上昇した。今後も対策を継続し、IF 付与の目標値である 3.0 を目指す。

*IF2020 は IF 計算方法の変更にもとないスコアが高い傾向にある。

9) 「DI Best Impact Award」設立について

優れた論文を呼び込み国際誌として発展させるため、「DI Best Impact Award」の設立が承認さ

れ、DI 担当理事および英文誌編集委員で構成される選考委員会の審査を経て、第 1 回受賞論文を下記のとおり決定した。

[Original Article] Sakaguchi, K., Takeda, K., Maeda, M. et al. Glucose area under the curve during oral glucose tolerance test as an index of glucose intolerance. *Diabetol Int* 7, 53-58 (2016). 2021 年第 64 回日本糖尿病学会年次学術集会に於いて第 1 回表彰式を開催する。

3. 「食品交換表」編集委員会 委員長 綿田裕孝

1) 委員会開催 (3 回) : 2020 年 6 月 6 日, 11 月 21 日, 2021 年 3 月 4 日

2) アンケート調査「糖尿病食事療法の指導状況の調査」(2018 年 6 月 -7 月実施) について

①結果をまとめたものが和文誌「糖尿病」63 巻 6 号に委員会報告『「食品交換表」編集委員会報告～アンケート調査からみた「食品交換表」の現状と課題～』として掲載された

3) [公益財団法人 味の素ファンデーション] より、「食品交換表」ベトナム語版作成についての打診があり、作成については許可を出し、完成次第送付頂く旨依頼をしている

4) 「食品交換表 第 8 版」の発行に向けて、作業を開始した

(ア) 11 月 21 日の委員会にて、第 7 版改訂時の流れ・行われた作業内容について確認をした

(イ) 「第 8 版」では、「日本食品標準成分表 2020 年版 (八訂)」(文部科学省) に基づいて改訂を行うこととした

(ウ) 改訂にあたっては (第 7 版の改訂時と同様に) 管理栄養士の方にも参画頂くこととし、3 月 4 日の委員会より 6 名の管理栄養士の先生方にご出席を頂いている

(エ) 次回編集委員会を 2021 年 5 月 13 日に開催予定としており、そこで改訂方針の骨子を定めたいと考えている

5) 出版事業 売上・発行状況 (2020 年 4 月～2021 年 3 月)

部数	売上部数	(累計売上部数)	増刷部数	(累計発行部数)	刊行日
食品交換表 第 7 版	71,640	(874,235)	80,000	(990,000)	2013 年 11 月 1 日
食品交換表活用編 第 2 版	4,118	(35,309)	0	(40,000)	2015 年 1 月 15 日
糖尿病腎症の食品交換表 第 3 版	2,422	(24,137)	0	(35,000)	2016 年 6 月 1 日
医療者のためのカーボカウント指導テキスト	915	(14,276)	0	(20,000)	2017 年 4 月 11 日
カーボカウントの手びき	980	(14,345)	0	(20,000)	2017 年 4 月 11 日

6) 引用許可願いの審査状況 (2020 年 4 月～2021 年 3 月)

	申請	審査中	許可		取下	
			無条件	条件付	審査前	審査中
食品交換表 第 7 版	27	1	13	13		
食品交換表活用編 第 2 版	1		1			
糖尿病腎症の食品交換表 第 3 版						
医療者のためのカーボカウント指導テキスト	1		1			
カーボカウントの手びき	3			2		1

4. 「糖尿病治療の手びき」編集委員会

委員長 前川 聡

- 1) 今年度は委員会を開催しなかった
- 2) 「糖尿病治療の手びき 2020 改訂第 58 版」を 2020 年 5 月 30 日に発行し、2021 年 3 月末時点での売上部数は 10,146 部 (内 電子書籍分: 14 部) である
- 3) 前版「糖尿病治療の手びき 2017 改訂第 57 版」の最終累計売上部数は 40,593 部 (内 電子書籍分: 28 部) である

5. 小児糖尿病委員会

委員長 浦上達彦

- 1) 委員会の開催
2021 年 3 月 6 日 (土) に委員会を Web で開催した。
- 2) 成人医療移行期支援プログラム
「1 型糖尿病に関する成人医療移行期合同委員会」による「成人医療への移行の現況に関する小児科医に対するアンケート調査」の結果を、第 63 回日本糖尿病学会学術集会にて発表し、委員会報告として学会誌「糖尿病」に掲載した (糖尿病 63: 776-783, 2020)。
- 3) 小児 1 型糖尿病の移行期医療における成人科への紹介に関しては、基本的に日本糖尿病協会のコーディネーター紹介に委ね、合同委員会では新設しない。
- 4) 日本小児内分泌学会糖代謝委員会と協力して、1 型糖尿病 (インスリン治療を必要とする) 幼児の幼稚園・保育施設への入園取り組みガイドに続き、学校への入学取り組みガイドを作成する。
- 5) 日本小児内分泌学会との共著として、小児・思春期糖尿病コンセンサス・ガイドライン 改訂第 2 版 (南江堂) を執筆する。

6. 「糖尿病治療ガイド」編集委員会

委員長 綿田裕孝

- 1) 今年度は委員会を開催しなかった
- 2) 「糖尿病治療ガイド 2020-2021」を 2020 年 4 月 30 日に発行し、2021 年 3 月末時点での売上部数は 78,521 部である

①「糖尿病治療ガイド 2018-2019」の最終累計売上部数は 84,452 部だった

- 3) 次版「糖尿病治療ガイド 2022-2023」の発行に向けて、植木浩二郎 前委員長より 委員長を交代した
- ①次版改訂のための第 1 回委員会を 4 月 2 日に開催予定である
- ②次版では (前版で大規模な改訂を行ったこともあり) 小規模の改訂に留める予定である
- ③ 2022 年 3 月の発行を目標とする

7. 「糖尿病学用語集」編集委員会

委員長 藤本新平

- 1) 今年度は委員会を開催しなかった
*当初 2020 年 3 月の「第 54 回糖尿病学の進歩」会期と合わせて開催を検討したが、同会が Web 開催に変更となったため本委員会もメールによる審議に変更した
 - 2) 「糖尿病診療ガイドライン 2019」「糖尿病治療ガイド 2020-2021」が発行されたことを受け、「糖尿病学用語集」に追加収載する用語を検討した
 - ①委員による審議を経て、68 用語を追加した
 - ②「FGM」と「iCGM (intermittently viewed continuous glucose monitoring/intermittently scanned continuous glucose monitoring)」については、審議の結果「iCGM」を採用することとし、定例理事会 (2020 年 12 月 6 日) で島田委員/理事よりご報告頂いた
 - 3) 引き続き「糖尿病学用語集」オンライン版では、「My Page」を活用し学会員からのご意見・ご提案を随時受け付ける窓口を設けており、投稿されたものについては委員会で審議し対応を検討する
- 今年度受付: 2 件 (追加要否等検討中)

8. 「糖尿病専門医研修ガイドブック」作成委員会

委員長 谷澤幸生

- 1) 今年度は委員会を開催していない。
- 2) 「改訂第 8 版」 (一部改訂) は 2019 年 5 月より改訂作業に着手し、専門医認定委員会担当理事およ

び専門医試験委員会担当理事で編集委員のパート分担と執筆者の選定を行い、2019年9月に刊行した「糖尿病診療ガイドライン2019」と齟齬の無いよう確認も行い、本年2020年11月に刊行した。価格の変更はしていない。

- 3) 2017年5月19日に刊行した「改訂第7版」の2020年4月～10月末までの売上部数は794部であった。また「改訂8版」の刊行から2021年3月までの売上部数は3,436部と売れ行きは好調である。
 - 4) 次期委員長には金藤秀明理事が就任することになった(2021年3月14日臨時理事会で承認)。
9. 「糖尿病診療ガイドライン2024」策定に関する委員会 委員長 谷澤幸生
- 1) 今年度は委員会を開催しなかった
 - 2) 次版改訂作業の開始に向けて、2020年4月10日に2019年版：荒木栄一 委員長と引継ぎのための打合せを開催した
 - 3) 策定委員長補佐には田口昭彦 学術評議員に就任頂き、野田光彦 評価委員長・能登洋 評価委員長補佐には2019年版に引き続き再任頂くこととした
 - ① 2021年1月8日に両委員長・両委員長補佐：4名による第1回の会議(コアメンバー会議)を開催し、統括委員に就任頂く方について検討した
 - ② 2021年1月18日に統括委員候補宛に就任依頼を送付し、全員より承諾を得た
 - ③ 2021年4月11日に第1回統括委員会を開催し、策定委員・評価委員他、委員会全体のメンバー構成について決定する予定である
 - 4) 「糖尿病診療ガイドライン2019」の売上部数は7,392部(内 電子書籍分：94部)である(2021年3月末時点)

10. 英語版「糖尿病診療ガイドライン2016」作成委員会 委員長 荒木栄一
- 「糖尿病診療ガイドライン2019」の発刊に伴い、2019年7月15日に委員会を開催し英語版作成に着手した。英語版の構成は「糖尿病診療ガイドライン2016」を踏襲し、各章CQ・Qのステートメント、付録(抜粋)、主要な図表、文献からなる簡易英語版を作成した。委員による校正を重ね、2020年7月、Diabetology International (Vol.11-3)とJournal of Diabetes Investigation (Vol.11-4)に同時収載した。

〈学術調査研究・教育に関する報告〉

11. 2021年度坂口賞および学会賞に関する報告

理事 綿田裕孝

- 1) 坂口賞は、加来浩平会員に授与する。
- 2) 学会賞審査委員会(稲垣暢也委員長)を2021年1月17日に開催し、各受賞者を選出した。

(1) ハーゲドーン賞

植木浩二郎(国立国際医療研究センター研究所)

「インスリン作用の障害による2型糖尿病の発症機構の分子メカニズム解明とそれに基づく治療法の開発」

(2) リリー賞

i) 栗澤元晴(国立国際医療研究センター研究所)

「肝臓を中心とした臓器間クロストークによる代謝制御機構の解明」

ii) 白川 純(群馬大学生体調節研究所)

「肥満2型糖尿病における脂肪組織M1/M2マクロファージの役割」

(3) 女性研究者賞

中司敦子(岡山大学病院)

「糖尿病合併症におけるバスピンの作用と新たな病態解明」

12. 学術調査研究・教育委員会 委員長 荒木栄一
- 委員会の開催：2020年9月13日および2021年1月9日にいずれもWebにより開催した。

昨年11月の委員会以降に申請のあった下記3件については、書面審議により検討し、いずれも承認した。

●糖尿病性網膜症・下肢壊疽等の総合的な重症度評価の作成と合併症管理手法に関する研究(羽田勝計委員長)の再申請

●アンケート調査による日本人糖尿病の死因に関する研究(中村二郎委員長)の新規申請

●第2次糖尿病治療と関連する重症低血糖調査(松久宗英委員長)の新規申請

今年度から学術調査研究の新規申請は期間を定めて募ることとなり、5月22日(金)から7月15日(水)を受付期間として募集した。しかしながら、コロナ禍の影響のためか申請がなかった。そのため研究テーマは特に定めず10月26日(月)から11月30日(月)の期間で学術調査研究の追加募集を行った。1件の申請があり、委員会で検討し、下記を承認した。

●2型糖尿病に対する厳格な多因子介入が血管合併症と生命予後に及ぼす長期的な影響の検討

(J-DOIT3)

また、期間延長の申請があった下記の2件について承認した。

- 1型糖尿病の成因・病態に関する調査研究
- 単一遺伝子異常による糖尿病の成因、診断、治療に関する調査研究

若手研究助成金の採択にあたっては、今回の募集に関して見直しを行うこととなっていたヒアリングは引き続き原則として行わないことを決定した。

また、2020年6月に理事改選が行われたことに伴い、本委員会の担当理事および委員から、3つの選考委員会（若手研究奨励賞、医療スタッフ優秀演題賞、若手研究助成金）の委員長および委員をそれぞれ決定した。

サノフィ株式会社から特定寄附金提供の申し出を受け、本委員会では名称、規定、申請書式などについて検討した。理事会での承認を経て、「日本糖尿病学会キャリアアデベロップメント報奨金（後援：サノフィ株式会社）（2021-2022）」という名称で、新年度に公表し、応募を受け付ける予定である。

13. 学術調査研究等倫理審査委員会

委員長 池上博司

今年度の下記の申請についてそれぞれ持回り審議による審査を行い、以下の決定をした。

- 1) 糖尿病性網膜症・下肢壊疽等の総合的な重症度評価の作成と合併症管理手法に関する研究
【承認】前年度からの継続審査で令和2年5月25日に回答した。
- 2) アンケート調査による日本人糖尿病の死因に関する研究
【承認】令和2年9月2日
- 3) 我が国における1型糖尿病の実態の解析に基づく適正治療の開発に関する研究
【承認】令和2年10月26日
- 4) 2型糖尿病の重症低血糖高リスク患者でのCGMを用いた無自覚性低血糖実態調査（CGM無自覚性低血糖調査）
【条件付き承認】令和3年2月1日、令和3年4月14日
- 5) 「一リアルワールド実態調査・J-DREAMS前向き調査」(糖尿病治療と関連する重症低血糖の調査委員会)
【承認】令和3年2月1日
- 6) 我が国における1型糖尿病の実態の解析に基づく適正治療の開発に関する研究」の一部変更に関する申請
【承認】令和3年4月13日

14. 年次学術集会運営委員会 委員長 荒木栄一
委員会の開催：2020年12月3日および2021年2月20日にいずれもWebにより開催した。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、第63回年次学術集会の開催については、前川会長と門協理事長との協議により、5月開催の延期を決定し、2020年4月3日付けで開催延期を公表した。その後、開催方式を大幅に変更して、2020年10月5日（月）から16日（金）を会期としてWeb配信により開催した。

2020年12月3日に開催の第1回の委員会では、第63回年次学術集会の開催報告を受け、第64回年次学術集会の開催方法や開催地の変更について、第65回年次学術集会の開催計画の概要について、および第66回年次学術集会の開催地についてそれぞれ検討した。

2021年2月20日に開催の第2回の委員会では、第66回年次学術集会を鹿児島で開催する場合の諸条件について検討した。コロナ禍で現地視察を実施できないため、会場間の移動についてはシャトルバスでの移動を想定して撮影された映像を含めて説明があった。会場および宿泊施設等も含め検討した結果、本委員会では鹿児島での開催を承認することとした。

第65回年次学術集会については、神戸ポートピアホテル、神戸国際展示場、神戸国際会議場を会場として計画しており、各会場の収容人数ならびに各セッションの予定演題数について報告があった。また、通常開催とHybrid開催のいずれでも実施できることを想定して準備中であることが併せて報告された。

第64回年次学術集会については、現時点での開催予定が報告された。

第63回年次学術集会開催を終えた前川会長が、指定講演をHybridとすることのメリットとして、開業医の会員や移動が容易でない遠方の会員にとっては、聴講しやすい点があげられるが、今回は初めての実施であったので、一般口演ではディスカッションが不十分であったと思われる。この点は改善の余地があるので、今後はHybridやWebでの開催の場合には工夫して運用していただきたい旨を述べた。

15. 「糖尿病学の進歩」運営委員会

委員長 荒木栄一

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、2020年2月26日付けで開催延期を公表した第54回「糖尿病学の進歩」は、9月2日、3日に共催セミナーのLIVE配信を行い、通常のプログラ

ムはオンデマンド配信で行うこととなり、9月14日（月）の正午から23日（水）までの開催として実施された。

第55回「糖尿病学の進歩」のプログラム案については、委員会の開催に代えて、8月中旬にメール審議により検討を実施した。今回新たにイブニングセミナーシンポジウムを行うこととなった。

2021年（令和3年）3月5日（金）・6日（土）に札幌コンベンションセンターで開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により完全WEB開催の形式での開催とすることを2020年12月22日に公表した。

2021年3月5日（金）、6日（土）にLIVE配信、同年3月5日（金）～15日（月）オンデマンド配信により開催された。

○LIVE配信…シンポジウム・共催セミナー・イブニングセミナーシンポジウム

○オンデマンド配信…専門医更新のための指定講演・糖尿病診療に必要な知識・糖尿病療養指導に必要な知識・臨床医が知っておくべき糖尿病の基礎・特別企画・世話人特別企画・シンポジウムの一部・共催セミナーの一部

16. 食事療法に関する委員会 委員長 宇都宮一典

糖尿病診療ガイドライン2019における食事療法の指針につき、本学会年次集会ならびに地方会のみならず、関連する他学会の学術集会のシンポジウム、教育講演、学術雑誌などを通して紹介する機会を幅広く与えられた。また、食事療法の新たな指針を盛り込んだ第8版糖尿病専門医研修ガイドブックが発刊された。あわせて、日本糖尿病療養指導士認定機構（CDEJ）の糖尿病療養指導ガイドブックならびに受験者用eラーニング教材の改訂に協力した。2021年9月、東京で開催される予定の第22回国際栄養学会議（IUNS-ICN 22nd）で、本学会の食事療法を中心に、韓国、台湾、米国のガイドラインを比較・検討するシンポジウムの開催が決定し、鋭意準備を進めていたが、COVID-19感染の拡大によって、2022年12月に延期となった。プログラムは予定通りである。目標体重とそれに基づくエネルギー設定には、学会の内外において概ね理解がえられたものと感じているが、これを具体化して指導する医療スタッフの声を聞く必要がある。今後CDEJを中心に、啓発と課題の抽出に努めたいと考えている。ついては、会員のご協力をお願いしたい。

17. 糖尿病関連検査の標準化に関する調査検討委員会 委員長 西尾善彦

本年度は当委員会を開催していないが、群馬大学の北村忠弘先生らを中心とした『グルカゴン測定法検証のための小委員会』において、いくつかのグルカゴンに関する検証項目について検討していただき、結果を2020年12月号の雑誌「糖尿病」に委員会報告として掲載していただいた。また、昨年度に検討を行った特定健診や人間ドックでのHbA1c値と病院受診時のHbA1c値が乖離する問題については、溶血した検体を測定に使用しないこと、そのためには採血管としてNaF入りではなくEDTA入り採血管の使用を推奨するとして委員会報告を2021年5月号の学会誌「糖尿病」に掲載予定である。

18. アンケート調査による日本人糖尿病の死因に関する研究委員会 委員長 中村二郎

委員：吉岡成人、片桐秀樹、植木浩二郎、山内敏正、稲垣暢也、谷澤幸生、荒木栄一、中山健夫、神谷英紀

2020年8月2日にZoomによる委員会が開催され、前回とほぼ同様の方法で2011-2020の死因調査を行うことが確認されたが、今回は紙面による登録を廃止しWeb入力のみとすること、非糖尿病患者の死因調査を加えることとなった。アンケート調査の入力画面の調整を行い、調査依頼先が確定され、3月末に調査依頼状が送付された。

19. 1型糖尿病の成因、病態に関する調査研究委員会 委員長 池上博司

1) 免疫チェックポイント阻害薬・劇症1型糖尿病関連課題（担当副委員長：今川彰久）

「抗ヒトPD-1/PD-L1抗体投与後に発症する1型糖尿病に関する疫学調査」は3月31日現在101例（中間報告では22例）が集積されている。検討結果の一部は第63回年次学術集会で発表した。臨床的特徴として、膵島関連自己抗体陽性患者が中間報告より高率であることなどが明らかになっている。これらの結果について論文執筆予定である。また、今回のデータをふまえて、1型糖尿病診断基準の見直しについても検討中である。このほか、「COVID-19に関連する1型糖尿病に関する疫学調査」を開始することとなり、現在倫理委員会に申請中である。

2) 膵島関連自己抗体測定法関連課題（担当副委員長：島田朗）

川崎英二委員より、1型糖尿病患者の同一検体を用いたGAD抗体RIA法とELISA法の検討で、

ELISA 法陽性の患者では RIA 法単独陽性患者に比べ発症年齢が若く、発症時の DKA 頻度が高く、空腹時 CPR が低く、登録 3 年後の空腹時 CPR 値が有意に低下するとの特徴が報告された。また、親和性の検討により RIA 法は低親和性と高親和性 GAD 抗体の両方を検出するが、ELISA 法は高親和性抗体のみを検出すること、および高親和性抗体は、CPR 低値、IA-2 抗体重複陽性、HLA-DRB1*04:05 と関連を示すことが報告された。IA-2 抗体 RIA 法と ELISA 法の検討では、RIA 法陽性患者の 15~20% は ELISA 法で陰性化すること、測定法に関わらず IA-2 抗体陽性緩徐進行 1 型糖尿病における空腹時 CPR は、IA-2 抗体陰性例に比べ有意に低いこと、インスリン分泌枯渇へ進行した緩徐進行 1 型糖尿病は、未進行患者に比べ女性優位であり、BMI、空腹時 CPR が有意に低く、診断時の DKA の頻度、GAD 抗体陽性率、IA-2 抗体陽性率が有意に高いことが報告された。これらの結果について論文執筆予定である。

20. 単一遺伝子異常による糖尿病の成因、診断、治療に関する調査研究 委員長 稲垣暢也

- 1) 2020 年 3 月 27 日、学会ウェブサイトにおいて本調査研究の広報文・説明同意文書・症例登録用フォーマットを掲載し、糖尿病診断時年齢 35 歳未満で、1 型糖尿病関連自己抗体陰性の症例、およびその罹患血縁者につき全国からの症例募集を開始した。

結果、2021 年 3 月末までに、28 の医療機関から、58 例（うち家系発端者 50 名）のゲノム DNA 検体と臨床情報が研究班に送付された。

- 2) 単一遺伝子異常による糖尿病の原因遺伝子 (HNF4A, GCK, HNF1A, PDX1, HNF1B, NEUROD1, INS, ABCC8, KCNJ11, WFS1, INSR 遺伝子) につき、次世代シーケンサーにて変異の検出に十分なカバレッジレベルを得られる系を確立し、すでに前述の検体のうち 44 例の解析を完了した。

21. 糖尿病治療に関連した重症低血糖の調査委員会 委員長 松久宗英

- 1) 委員会開催：1 回（2020 年 9 月 27 日）
- 2) 委員追加について理事会に上申し、6 月 13 日の定例理事会で承認された（杉山雄大会員、廣田勇士会員）。
- 3) 昨年開催した委員会での議論を元に、学術調査研究申請書を作成し、2020 年 4 月 27 日に学術調査

研究・教育委員会に提出した。8 月 28 日に承認の通知があった。

【調査タイトル】

- 1) 2 型糖尿病の重症低血糖高リスク患者での CGM を用いた無自覚性低血糖実態調査 (CGM 調査)
- 2) JMDC・NDB を用いた重症低血糖のリアルワールド実態調査 (リアルワールド実態調査)
- 4) 2020 年 9 月 27 日に委員会を開催し、倫理審査申請書を作成すべく、研究計画について検討した。
- 5) 9 月 27 日の委員会での議論を元に、倫理審査申請書を作成し、12 月 16 日に学術調査研究等倫理審査委員会に提出し、審査を受けた。2021 年 2 月 1 日付で回答があり、指摘事項があったため、3 月 11 日に再提出した。
- 6) 2021 年 2 月 6 日 J-DREAMS 全体会議において、本調査での J-DREAMS データ活用に関する紹介とデータ入力の実施を実施した。

22. 膵・膵島移植に関する常置委員会

委員長 稲垣暢也

- 1) 委員会開催状況：1 回 2020 年 4 月 16 日に、日本膵・膵島移植研究会の膵島移植適応検討委員会との合同会議（Web 会議）を開催した。
- 2) 2020 年 4 月 1 日より膵島移植が保険適用されたことに伴い、上記合同会議で、日本膵・膵島移植研究会の膵島移植適応検討委員会が改訂した膵島移植適応基準改訂案および膵島移植適応判定申請書改定案を検討、議論し作成した。引き続き、膵・膵島移植に関する啓発に取り組むなど連携を図る。
- 3) 日本膵・膵島移植研究会からの依頼で、2021 年 3 月開催した第 48 回日本膵・膵島移植研究会において、本学会とのジョイントで「膵臓移植における糖尿病内科医と移植外科医との連携(仮題)」ワークショップを行った。
- 4) 膵臓移植中央調整委員会と連携しながら日本臓器移植ネットワークから移植待機患者のデータを入手して解析することの検討を進めている。

23. インクレチン薬治療のヒト膵腫瘍発生リスクに関する臨床病理学的研究調査委員会

委員長 八木橋操六

本年度はコロナ流行のため委員会開催はされなかった。紙上にて研究経過報告を各委員に送付し討議等がなされた。今年度は膵外分泌組織病理組織学的変化についてインクレチン投与群と非投与群およ

び非糖尿病患者群と比較検討を行った。DPP4 阻害薬あるいは GLP1 作動薬いずれかが 6 か月以上投与された剖検症例（平均投与期間 18 カ月）で膵組織の病理評価が可能であった 57 例、対照として非糖尿病 33 例、インクレチン非投与の 30 例を用い比較検討を行った。膵外分泌病理評価に関し改めて膵病理を専門とする病理医への外部評価を加え、評価の客観性を確認した。結果として、糖尿病では非糖尿病群に比し導管内乳頭状粘液産生腫瘍（良性）の高頻度の併発を認めた（7.7% vs 3.0%）。インクレチン治療糖尿病群での併発は 7.5% で同程度であり有意差をみなかった。導管内上皮増殖病変の上皮内異型変化（PanIN1 および 2；low grade）の出現頻度は非糖尿病群、糖尿病群同等でありインクレチン投与群も非投与群と同等であった。膵実質での炎症巣、線維化、腺房萎縮、腺房導管上皮化生（ADM）、脂肪浸潤、出血、腫瘍病変などの頻度について、定量的解析を行ったが、インクレチン治療群で有意の変化を認めなかった。これまでの検討では、インクレチン治療群での膵病理変化について、膵島内分泌細胞での α 細胞容積の増加を特徴としているが、外分泌病変での腫瘍、炎症性変化について有意な変化は認められなかった。今回の調査結果から、適正なインクレチン関連治療薬投与に起因すると考えられる膵外分泌腫瘍、炎症性病変は指摘できず、これらの結果を調査研究結果として報告する予定である。

24. 2 型糖尿病に対する厳格な多因子介入が血管合併症と生命予後に及ぼす長期的な影響の検討 (J-DOIT3) 委員長 門脇 孝

2016 年 4 月に開始となった J-DOIT3 追跡研究は、2020 年 6 月までが 4 年目の定期調査期間にあたり、引き続きデータの収集などを継続した。並行して収集済みのデータについて、クリーニングを進めた上で解析を行なった。

追跡研究における治療目標は患者と主治医の間で、研究登録時に加え、主解析結果発表時に再度決めることとなっている。今回目標設定状況を再度解析したが、目標値を介入期間中から変更した症例の割合や、目標値の平均については、研究登録時から殆ど変化が見られなかった。

また 3 年目の定期調査における治療状況として、平均 HbA1c は従来治療群と強化療法群で各々 7.4%、7.2%、平均血圧 133/74mmHg、131/72mmHg、平均 LDL- コレステロール 98mg/dL、85mg/dL とほぼ変化がなく、介入期間中より群間差は縮小しているものの、引き続き強化群の方が良好であった。

主要評価項目（総死亡・心筋梗塞・脳卒中・血行

再建術）、及び副次評価項目（腎症、網膜症）について、強化療法による介入期間中の抑制効果に加えて legacy effect が期待される。更に探索的評価項目（QOL、認知機能、有害事象）についても評価する予定である。

一方で介入研究のサブ解析も進めた。腎症イベント（主に発症）の抑制には強化療法が有効で、HbA1c が最も重要である一方、腎症の進展抑制には血圧のコントロールが重要であることが示され、論文発表を行なった（Kidney Int 99（1）：256-266, 2021）。また網膜症イベント（主に発症）の抑制にも強化療法が有効で、危険因子のコントロールとしては HbA1c が最も重要であることが示された。HbA1c の閾値を求めるため、スプライン曲線による近似を行なったところ、網膜症の発症は HbA1c が上昇するほど直線的に増加する一方、HbA1c 6% 付近まで下がるとそのリスクが更に低下することが明らかとなり、熊本宣言の 6-7-8 方式を裏付ける結果であった。一方で介入期間中に低血糖を起こした症例では網膜症発症のリスクが高く、すなわち網膜症予防の観点からも、厳格かつ安全な血糖コントロールの重要性が示唆された。

更に有害事象のうち骨折に注目して解析を行ない、強化療法によるリスクの上昇がないことを示したのに加え、2 型糖尿病に合併した骨折の危険因子として、男性では喫煙歴、女性では FRAX スコアとピオグリタゾンの投与を同定し、論文発表を行なった（J Clin Endocrinol Metab 2021 Jan 25；dgab013）。

J-DOIT3 追跡研究は当初は 2021 年 6 月までの 5 年間の予定であったが、本年 3 月に日本糖尿病財団の中央倫理委員会の承認を得て、研究期間を 2026 年 6 月まで延長し、2021 年 6 月までを 1 期、以降 2026 年 6 月までを 2 期と呼ぶこととした。併せて 2021 年度以降も日本糖尿病学会からの研究支援の継続を決定いただいた。

25. 我が国における 1 型糖尿病の実態の解析に基づく適正治療の開発に関する研究

委員長 島田 朗

- 1) 今年度は、ウェブにて 2 回委員会を開催した。
- 2) 本研究は、2020 年 10 月 26 日付で日本糖尿病学会の倫理審査で承認され、現在、委員の各施設において倫理審査中である。NDB 班、レジストリー班、適性治療検討班、の 3 つの班にて活動予定である。NDB 班においては、1 型糖尿病患者数の推定が主たる目的である。レジストリー班においては、レジストリー項目を確定し、入力システムを構築した上で、全国約 700 の糖尿病専門施設に公

示し、2021 年中にはデータを収集する予定である。適性治療検討班では、J-DREAMS に基づく具体的な評価項目と小児インスリン治療研究会とのデータ共有について検討中である。なお、コロナ禍のため、研究の遂行が遅れており、研究の延長申請をしていく方向性である。

26. 糖尿病性網膜症・下肢壊疽等の総合的な重症度評価の作成と合併症管理手法に関する研究委員会

委員長 羽田勝計

本研究課題は、厚生労働省科学研究課題として 2016～2018 年度に採択され、研究継続するために、糖尿病学会学術研究として 2019 年に申請した。本委員会は 2020 年 8 月に学術調査研究・教育委員会により申請が承認されて発足した。コロナ禍の中で委員の対面での集合が困難であることから、2020 年 11 月 17 日に委員会を web にて開催した。

委員会では、糖尿病学会学術研究として申請した経緯と承認まで時間を要した経過（糖尿病学会倫理委員会への申請、計画内容の絞り込み）について、委員にまず説明があった。その上で、「糖尿病壊疽の発生や重症化を促進する因子の解析」と「下肢血流障害の早期発見検査法の開発と、眼（網膜）血流障害と関連性の検討」については終了とし、「糖尿病網膜症の重症化および足病変の多施設前向き大規模コホート研究」を継続して研究することとなった。

研究の中間報告では、網膜症関連複合アウトカムの発症に関連のある有意な因子として、Cox ハザード解析では、糖尿病罹病期間、収縮期血圧、eGFR、血清 HDL-c 値、血清 LDL-c 値が、足病変関連複合アウトカムの発症に関連のある因子として、Cox ハザード解析では、高齢、女性、喫煙、網膜症、血清 HDL-c 値、血清 LDL-c 値が抽出された。

今後の解析については、コホート症例施設の委員でさらに検討することが了承された。

27. インスリン抵抗症の疾患分類と診断基準策定のための WG

リーダー 小川 渉

本 WG は、2019 年の定例理事会で WG 設立が承認され、2020 年 12 月 6 日の定例理事会でメンバーが承認され、活動が始まった。

2021 年 1 月 10 日、2 月 11 日にワーキングを開催し、疾患分類案と診断基準案を作成した。今後は WG の活動報告を雑誌「糖尿病」「DI」ならびに日本内分泌学会誌「Endocrine Journal」に掲載する予定である。また、インスリン抵抗症のレジストリーを作成する研究を、学会の学術研究に申請する予定である。

〈学会認定事業に関する報告〉

28. 専門医認定委員会

委員長 中村二郎

新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し、専門医受験申請、研修指導医新規申請ならびに各種更新申請書類の受付期間を例年より 1 か月延長した。2020 年度第 31 回糖尿病専門医試験は 10 月 25 日（日）に実施した。再受験者は、過去に受験実績があることから「症例報告（外来）30 症例」のみ書類審査を行った。新型コロナウイルス感染拡大の影響により受験を見送る（当日欠席含む）受験者に対して、次年度まで受験資格を維持する対応措置を行った。申請者数 439 名、書類審査合格者 433 名であった。受験者 379 名（内科 370 名、小児科 2 名、小児科特例 7 名）が筆記および面接試験を受験し 314 名（内科 311 名、小児科 2 名、小児科特例 1 名）が合格した。当日欠席を含め受験見送り希望者は 54 名であった。2020 年度は受験を見送る措置を事前に募ったため、受験者合格率で算出し 83%であった。

その他、研修指導医は 109 名（随時申請 17 名含む）、認定教育施設（Ⅰ・Ⅱ）28 施設、教育関連施設 2 施設、連携教育施設（小児科）1 施設の書類審査を行い新たに認定された。

更新認定の書類審査を行い、専門医 1,185 名、研修指導医 357 名、認定教育施設（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）189 施設、教育関連施設 12 施設、連携教育施設（小児科）5 施設が更新した。

専門医制度規則を次のとおり改訂した。専門医試験再受験者の申請書類を一部免除することとした。旧制度の専門医試験を 2027 年度実施分までとした。研修指導医を取得した場合の初回認定期間を専門医の認定期間に揃えることとした。WEB 開催の地方会で単位付与するのは「所属支部」の地方会のみとすることとした。WEB 開催の年次学術集会、糖尿病学の進歩、糖尿病合併症学会ならびに地方会の指定講演で取得できる単位数を「10 単位/年度」とすることとした。

「糖尿病専門医研修ガイドブック第 8 版」（2020 年 11 月 30 日刊行）に伴い糖尿病専門医研修カリキュラムの項目名や到達目標の見直しを行った。

新専門医制度に関して、2020 年 6 月 30 日に日本専門医機構の社員総会が行われ、サブスペシャリティ領域研修細則が認められた。研修細則では連動研修方式、通常研修方式、補完研修方式の 3 つの研修区分が示された。「糖尿病」と「内分泌・代謝」を「内分泌代謝・糖尿病内科領域（仮称）」として補完研修方式に区分された。日本内分泌学会と検討し「内分泌代謝・糖尿病内科領域（仮称）」の医師像を決定し、2020 年 12 月に「内分泌代謝・糖尿病内科領域

(仮称)」と「糖尿病」のレビューシートを日本内科学会経由で日本専門医機構に提出した。「内分泌代謝・糖尿病内科領域(仮称)」の「整備基準(案)」を日本内分泌学会に提示した。今後、日本内分泌学会と協同で制度設計に関して検討会を開催すべく調整することとなった。

29. 専門医試験委員会 委員長 西尾善彦

第53回専門医試験委員会は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、会場開催はせず、2020年5月下旬に書面決議を行った。第31回糖尿病専門医試験にむけて、試験方法と出題問題の作成分担、口頭試験担当者、試験監督担当者を決定した。

8月9日に委員長ならびに数名の委員が、提出された試験問題のチェックを行い、9月20日に試験問題の選定が行われた。

第31回糖尿病専門医試験は、10月25日都市センターホテルにおいて実施した。

受験者は379名(内科370名、小児科2名、小児科特例7名)で、11月8日に可否判定案を作成、11月23日に専門医認定医委員会に報告、314名(内科311名、小児科2名、小児科特例1名)の合格者が確定した。なお、受験者全体合格率は、83%であった。2020年度から、結果通知とともに成績開示を行った。

第32回の試験は2021年10月24日(日)、第33回の試験は2022年10月23日(日)で、いずれもパシフィコ横浜にて実施予定。

〈その他学会活動に関する報告〉

30. 選挙管理委員会 委員長 山田祐一郎

例年同様、本委員会は郵便、e-mail等を利用して委員会活動を進めていくこととし、従来の申し合わせに従い、理事会推薦の山田祐一郎委員が委員長となった。2021年度「会長選挙」の手順は前年度の「会長選挙手順」を踏襲し、

- 1) 支部からの推薦締切日は2020年11月7日とする。
- 2) 推薦された方の意思確認および理事長への報告を行い、
- 3) 12月6日の定例理事会で、最終候補者3名を決定する。
- 4) 候補者の所信のフォーマットは前年度と同様とし、2021年1月15日を締切日とする。

こととした。

2021年1月27日に委員会を開催し、以降の進め方について協議検討した。

- 1) 会長選出手順およびこれまでの手順についてそ

れぞれ確認した。

2) 所信の確認

1名の候補者から提出された所信について、内容、印刷の字体や文字数、行間隔などを検討し、本人への指摘事項を決定した。

3) 今後の手順について

所信の手直し終了後に、規則に則り従来の形で理事長への報告、会員への周知、学術評議員への所信の送付等を行うことが確認された。学術評議員のうち、メールマガジンでの送付が可能な方へは、メールマガジンにて所信がホームページに掲載されたことを通知し、閲覧を促すこととした。また、学術評議員会で配布する資料に所信を掲載することとした。

4) 学術評議員会での投票について

前年度はコロナ禍のもと学術評議員会自体が、従来とは異なる開催形式で行われ、今年度も同様に、HP上の操作により各議案への賛否が投票で行われることとなり、会長選挙の投票も同様に行われることとなった。なお、今回は会長候補者が1名であるため、投票は信任投票となることを確認した。

31. 将来計画委員会 委員長 綿田裕孝

2020年4月11日に第3次第2回委員会をwebで開催した。

- 1) 「女性糖尿病医をpromoteする委員会」委員会名の変更について検討され、「糖尿病医療者・研究者のダイバーシティをpromoteする委員会」に決定した。ミッションに関しては、男女共同参画、多職種の参画、若手と学生の登用とすることとし、2020年4月19日開催の理事会へ提言した。

- 2) 「糖尿病基礎研究のactivity低下に関する対策」について、今後継続して対策を考えていくが、比較的簡単にできる取り組みとして以下を提案した。

- ①各支部で、学生、若手医師が糖尿病基礎研究に興味を持つような会を企画してほしい。
- ②現状を鑑みると、若手研究奨励賞では、臨床研究を採択しなくてはならないということを考慮する必要はないのではないか。

以上について同理事会へ提言した。

32. 定款・細則検討委員会 委員長 綿田裕孝

今年度は委員会を開催しなかった。

33. 女性糖尿病医を promote する委員会

委員長 安孫子亜津子

1) 委員会開催：1回 (2020年5月31日)

*2019年度委員は2018年度から変更なし(18名)

2) 2017年度アンケート調査委員会報告について

①会誌「糖尿病」62巻5号に委員会報告として掲載された「糖尿病専門医の働き方と生活現状調査、学会に求められる取り組みについて」が、英文誌「Diabetology International」にも掲載された

The work style and living condition survey of diabetologists and the expectations for the Japan Diabetes Society : results of questionnaires about the current state and the future prospect of their carrier in 2017 (Diabetol Int. 11-4, p299-308 (2020))

3) 年次学術集会と地方会

①第63回年次学術集会において、本委員会企画シンポジウム「ダイバーシティを意識した働き方—他分野の取り組みも含めて—」を開催した ※なおキッズセミナーはCOVID-19の影響で中止とした

②2020年度地方会について：

中部/九州/近畿/中国・四国/関東甲信越の各地方会で本委員会企画セッションを開催した

③2018年度に各支部地方会にて行った共通アンケート調査結果を「糖尿病News」2020年 No.2 (2020年4月発行)に掲載した

4) Webサイト「女性糖尿病医サポートの取り組み」(本委員会HP)

①会誌「糖尿病」第62巻5号に掲載された委員会報告を掲載した

②「キラリ☆女性医師！」に、3件の記事を掲載した(2020年6月、8月、2021年2月)

[開設(2015年4月)からの累計掲載人数：35名]

③ホームページの更新情報は、本委員会からの学会員宛メールマガジンとして不定期配信・外部ニュースサイトでの告知記事掲載を継続して行っている

④年次学術集会・地方会で企画した関連講演については、講演動画・スライドを適宜「女性医師応援ライブラリ」コーナーに掲載している

⑤「若手・研修医診療お役立ツール」としてリンク集のコーナーを作成した

5) 他学会・他団体との連携

①内科系学会の男女共同参画に関する連絡協議会が2020年4月11日に開催予定されていた

が、COVID-19の影響により中止となった

6) 本委員会の今後について

①本委員会としての要望もあり、第3次将来計画委員会からの提言により本委員会は活動を終了し、後継の「糖尿病医療者・研究者のダイバーシティを promote する委員会」にその役割を移すこととなった

[参考資料]

<男女割合(2021年3月末時点)>

	男	女	全体	男	女	
理事	19名	1名	20名	95.0%	5.0%	(2020年6月改選)
学術 評議員	652名	86名	738名	88.3%	11.7%	(2019年5月改選)
専門医	4,299名	2,079名	6,378名	67.4%	32.6%	
医師会員	10,907名	4,860名	15,767名	69.2%	30.8%	

<年次学術集会：一般演題の女性医師座長割合>

2020年度 第63回	2019年度 第62回	2018年度 第61回	2017年度 第60回	2016年度 第59回	2015年度 第58回
6.5%	20.7%	13.7%	11.8%	22.7%	8.7%

34. 糖尿病医療者・研究者のダイバーシティを promote する委員会

委員長 佐藤麻子

本委員会は、「女性糖尿病医を promote する委員会」の後継の委員会として、将来計画委員会からの提言を受けて、2020年6月13日に発足した。本委員会のミッションは「女性糖尿病医のみならず、糖尿病学、糖尿病医療に様々な立場で携わる医療人のキャリア形成を支援し、将来輝いて活躍できる学会を目指して活動する。」ことである。委員を選出し、10月18日より始動した。

今後の活動の方向性としては、①これまでの「女性糖尿病医を promote する委員会」の継続、②メディカルスタッフにおける問題点、③若手医師・研究者における問題点について検討することとし、3つの小グループに分かれて活動することとした。

第64回年次学術集会に委員会関連企画としてシンポジウムを企画し、案を提出した。またシンポジウムに先立ち、学会員を対象としたアンケートを本学会HP「MyPage」で実施している。

35. 広報委員会

委員長 綿田裕孝

1) 今年度は委員会を開催しなかった

2) 2020年6月の理事改選を受けて、植木浩二郎 前委員長から委員長を交代した

3) 2021年4月2日に次回委員会開催を予定している

4) 2016年10月に行った「禁煙宣言」以降、毎年10月-11月頃に「MyPage」アンケートを利用して「禁煙宣言」に関する実態調査を実施し、喫

煙/非喫煙者数の推移を集計している

①今年度調査として〔2020年12月11日-1月11日〕にアンケートを実施した

②本アンケートは5年間(計5回)実施したため今回のもので一旦終了とし、結果をまとめたものを「糖尿病 News」に掲載する方向で検討する

5) 2020年3月に公開した学会 Web サイトのリニューアルについて、〔一般の方へ〕ページ内のコンテンツ作成が pending のままとなっていたため、2021年度前期での公開を目標として作業を進める

36. 利益相反委員会 委員長 綿田裕孝

- 1) 今年度には委員会を開催していない。
- 2) 委員長は本年6月の理事改選、植木浩二郎前委員長の理事長就任に伴い、綿田裕孝庶務担当常務理事に交代した。
- 3) 日本医学会 COI 管理ガイドラインが一部改定され、また、それに伴い日本内科学会の「医学系研究利益相反 (COI) に関する共通指針」も改定された。主な改定点は組織 COI の開示義務の追加である。これを受けて本学会 HP 掲載の「医学系研究利益相反 (COI) に関する共通指針」と「役員などの COI 申告書」を改訂版に更新をおこなった。

37. 糖尿病の保険診療報酬に関する検討委員会 委員長 島田 朗

2021年度の診療報酬改定に向けて内保連を通して提案する案件は、以下の3項目である。1) 周術期血糖管理料、2) SGLT2 阻害薬使用中の1型糖尿病における血中ケトン体自己測定加算、3) 糖尿病重症化予防データ解析指導管理(遠隔含む)料。5月には、内保連内での事前ヒアリングがあり、7月の厚労省へのヒアリングに備える予定である。

38. CGM 適正使用推進委員会 委員長 島田 朗

1. 今年度は委員会を開催していない。
2. 委員長には、本年6月の理事改選、田中逸委員長の理事退任に伴い、島田朗委員が就任した。
3. リアルタイム CGM e-ラーニングを2019年4月から受講を開始したが、今年度2020年4月1日~2021年3月31日の登録者数は2,262名、確認テスト修了者は1,883名であった。(参考:受講から開始までの総登録者数は4,903名、確認テスト修了者数3,744名)
4. 今後、新規機種発売に伴い、e-ラーニングの修正

あるいは続編の作成も検討を予定している。

〈対外的活動に関する報告〉=====

39. 国際交流に関する報告 担当理事 稲垣暢也

1) 国際糖尿病連合 (IDF)

① IDF に関する事項

・ IDF Diabetes Complications Congress 2020 (Lisbon) および IDF Congress 2021 (Bangkok) が延期され、前者は IDF Virtual Congress 2021 として2021年12月6-11日に開催予定、後者は IDF Congress 2022 (Lisbon) として2022年12月5-8日に開催予定 (COVID-19 のため変更の可能性あり) となった。

・ Member Associations に対し各国の COVID-19 の状況報告依頼があり、IDF 公式ジャーナル Diabetes Research and Clinical Practice (DRCP) に、特集 “Diabetes and COVID-19: the IDF Perspective” として取り纏められた。

② IDF-WPR に関する事項

・ 2020年 The 13th IDF-WPR Congress (Shanghai) (The 12th AASD Scientific Meeting と共同開催) は COVID-19 の影響により延期され、2021年7月16-18日にハイブリッド形式での開催予定 (COVID-19 のため変更の可能性あり) となった。

・ DRCP の COVID-19 特集に、WPR からの報告として “Diabetes and COVID-19: IDF perspective in the Western Pacific region” の執筆に協力し、掲載された。

・ 2020年9月13日、11月22日、2021年2月7日、2月28日に WPR Executive Committee Meeting が WEB 開催され、門脇孝理事、矢部大介会員が参加した。

・ 新規調査として “WPR Diabetes Mortality study” が立ち上がり、日本から中村二郎常務理事を research director に推薦した。

2) アジア糖尿病学会 (AASD)

・ The 12th AASD Scientific Meeting (The 13th IDF-WPR Congress と同時開催) は COVID-19 の影響により延期され、2021年7月16-18日にハイブリッド形式での開催予定 (COVID-19 のため変更の可能性あり) となった。

・ The 13th AASD Scientific Meeting (ICDM 2021 と同時開催) は、2021年10月7-9日にハイブリッド形式での開催予定 (COVID-19 のため変更の可能性あり) となった。

・ 2021年2月に、AASD 学会賞受賞者が報告され、The Masato Kasuga Award for

Outstanding Scientific Achievement に清野祐介会員が選出された。

3) 欧州糖尿病学会 (EASD)

EASD 2020 (9月21日~25日, Virtual Meeting) Associations' Village に学会ブースを出展した。バーチャルブースでは年次学術集会や英文誌の紹介資料を掲示した。President's Tour Associations' Village 2020 もバーチャルで開催され、EASD President の Prof. Stefano Del Prato が各ブースをアバターで回った。

① East-West Forum に関する会議

第9回 East-West Forum は第63回年次学術集会で予定されていたが、COVID-19の影響により延期を決定し、2021年第64回年次学術集会において開催予定である。テーマおよび演者は2020年に予定していた内容を引き継ぎ、"Which outcomes are driving the therapeutic perspectives-differences and similarities" とする。

② 欧州糖尿病財団 (EFSD) との交換留学プログラムに関する会議

- 1 EFSDからの提案を受け、2020年度に続き2021年度の募集も延期を決定した。理事会承認を経て学会ホームページに案内を掲載した。
- 2 EFSDより新規合同プログラム (Differences in Diabetes across the World Programme) の提案がされた。本プログラムが指定する研究1案件につき上限100,000ユーロを双方から助成する提案であるが、企業協賛や詳細を詰める必要がある。COVID-19の状況により保留となっている。

4) 日韓関連

2021年5月開催予定のKDA spring meetingにおけるKorea-Japan sessionについて、2021年5月8日Virtualでの開催を予定しており、日本側から龍岡久登会員と霜田雅之会員をSpeakerに選出した。

5) JDI 関連

査読、投稿に関する当学会の支援のもと、2019年インパクトファクター3.761 (ISI Journal Citation Reports © Ranking: 2019: 48/143 (Endocrinology & Metabolism)) を取得した。

40. 日本医学会に関する報告

評議員 植木浩二郎

2020年8月28日に開催された2020年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の選考委員会におい

て、本学会が推薦した下記の2名への医学研究奨励賞の授賞が決定された。

- ・大規模マルチオミクスデータの因果推定による糖尿病のリスク因子解明

鈴木 顕 (阪大・遺伝統計学)

- ・下肢末梢動脈疾患と冠動脈疾患における心血管リスク管理の比較検討

高原充佳 (阪大・糖尿病病態医療学)

第88回日本医学会定例評議員会は2021年2月26日にWeb会議により開催された。2020年度日本医学会新規加盟学会として、日本骨代謝学会および日本婦人科腫瘍学会の2学会が承認された。

41. 糖尿病総合対策への取り組みに関する報告

理事長 植木浩二郎

第16回日本糖尿病対策推進会議幹事会が2021年3月3日(水)にオンラインにより開催された。糖尿病治療のエッセンスの改訂を行うことが決定された。前回と同様に糖尿病治療のエッセンス改訂ワーキンググループを設置して実務を行う予定である。

1) 「対糖尿病戦略5ヵ年計画」作成委員会 (第4次)

委員長 綿田裕孝

2020年6月11日に委員会を開催し、リーフレットに新型コロナウイルス関連の内容を追記することを決定し、また、冊子体の活用方法について検討した。

新型コロナウイルス関連の内容を追記し、理事回覧した上で、8月19日に学会HPに掲載した(PDF版)。また、冊子体を作成し、糖尿病News Vol.3に同封して、全会員に配布した。

2) 「健康日本21」の糖尿病対策検討委員会

委員長 荒木栄一

今年度は委員会を開催しなかった。

3) 糖尿病データベースの構築委員会

委員長 荒木栄一

日本糖尿病学会では現在、JDCP study と J-DREAMS という2つの大規模データベースを有している。

(1) JDCP study 研究調整委員会

委員長 西村理明

JDCP study は、対象とした糖尿病患者6,338例を8年間追跡した観察研究である。2017年10月末日で登録症例の追跡を終了した。観察期間3年、5年、8年の追跡率は、それぞれ、81.9%、73.0%、および57.3%である。

ベースラインデータに関しては論文化が順調に進行しており、1型糖尿病、2型糖尿病、歯周病については「糖尿病」並びに

「Diabetology International (DI)」両誌に、網膜症は「DI」誌に、腎症については「JDI」誌に報告した。食事療法と運動療法に関しては両WGが連携して結果をまとめており、また、神経障害WGも論文をすすめている。

追跡データに関しては、大血管WGが全追跡期間中のイベント判定を終え、論文が完成し、投稿中である。細小合併症、歯周病の追跡データについても、イベントの確定を進めている。さらに、死因についての判定も終了したため、詳細な検討を行う予定である。

一方、追跡期間中に、改善・増悪の両者が見られるアルブミン尿、ならびに網膜症の追跡データの固定には、相当な時間を要すると考えられる。

本研究にご協力頂いた医療機関の諸先生、医療スタッフの方々に心から御礼を申し上げます。

(2) 診療録直結型全国糖尿病データベース事業 (J-DREAMS) 合同委員会

委員長 荒木栄一

- 1) 委員会開催 (1回) : 2020年12月6日
- 2) J-DREAMS事業の継続のため、J-DREAMS事務局 (国立国際医療研究センター) に1,250万円の寄付を3年間行うことについて定例理事会 (2020年12月6日) において承認された
- 3) 2015年度に始動した診療録直結型全国糖尿病データベース事業「J-DREAMS (Japan Diabetes comprehensive database project based on an Advanced electronic Medical record System)」について、2021年3月末時点で63施設が参加し、約70,000症例登録され、目標であった50,000症例を達成した
 - ①今後も参加施設数と症例登録数の増加を目指し、今後2年以内に登録症例100,000件を目標とする
 - ②データ入力に使用している各ベンダー (IBM, 富士通, NEC, ソフトウェアサービス, FINDEX, キヤノン) のテンプレートについては、使い勝手や継続性の向上を目指し改善に取り組んでいる
 - ③全国共通版テンプレートを改訂し、フレイル, サルコペニアに関する項目が入力できるように改修し、2021年7月を目処に全参加施設のテンプレートを更新する作業に入っている
 - ④MSD社との共同研究契約の成果として

ベースライン論文を投稿し、査読後に改訂した論文を2021年3月に再投稿した

- ⑤現在、企業との共同研究の予備検討と協議を進めており、2021年度から数本研究を開始する予定である。

42. 分科会に関する報告

日本糖尿病合併症学会 理事長 中村二郎
日本糖尿病学会の分科会である日本糖尿病合併症学会は、第35回日本糖尿病合併症学会年次学術集会を、古家大祐会長 (金沢医科大学 糖尿病・内分泌・内科学) の下、第26回日本糖尿病眼学会総会と合同で2020年12月7日~21日の15日間、webにて開催された。

年次学術集会は、シンポジウムが合併症学会として7題、眼学会と合同で4題、そして一般演題は例年通り全てワークショップ形式で行われた。市民公開講座もweb開催された。

本学会が設けた各学会賞は以下の受賞者に贈呈され、受賞講演が行われた。

Outstanding Foreign Investigator Award :
Katalin Susztak 先生

(Perelman School of Medicine, University of Pennsylvania)

Distinguished Investigator Award : 羽田勝計先生 (AMC 西梅田クリニック)

Expert Investigator Award : 和田隆志先生 (金沢大学)

Young Investigator Award : 坊内良太郎先生 (国立国際医療研究センター研究所)

第36回日本糖尿病合併症学会年次学術集会は、前川 聡会長 (滋賀医科大学) の下、2021年10月8日、9日の2日間、大津プリンスホテルにて開催される予定である。

第37回日本糖尿病合併症学会年次学術集会は、稲垣 暢也会長 (京都大学) の下、2022年10月21日、22日の2日間、京都国際会館にて開催されることが決定している。

学会の機関誌「糖尿病合併症」は抄録号を含め3回発行された。

43. 日本糖尿病協会委員会 担当理事 稲垣暢也

- 1) 今年度は委員会を開催しなかった。
- 2) 日本糖尿病学会・日本糖尿病協会合同アドボカシー委員会 (委員長 山田祐一郎)

①日本糖尿病学会委員 : 山内敏正, 原田範雄, 加藤明日香, 橋本英樹

日本糖尿病協会委員 : 津村和大, 野見山崇, 黒

江ゆり子, 飯野奈津子

- ② 2020 年度第 1 回の会合を 7 月 23 日 (木・祝) に web 会議を開催した。
- ③ ステイグマの現状に関する患者調査とアドボカシー活動の評価としての社会調査ならびに政策的アドボカシーターゲットについて検討した。関西電力病院を中心に「糖尿病患者のステイグマの評価」を実施した。また、2019 年 11 月から 2020 年 5 月にかけて行ったアドボカシー web アンケート (患者・家族あるいは患者以外) を実施した。今後、糖尿病という病名変更も含めて議論していくことで、合意を得た。
- ④ 2020 年度の世界糖尿病デーの公式ポスターのデザインについて、従来のブルーサークルデザインからアドボカシーの内容を盛り込んだデザインに変更した。

〈合同委員会に関する報告〉

44. 糖尿病性腎症合同委員会 世話人 植木浩二郎
次回第 46 回糖尿病性腎症合同委員会は、2020 年 12 月 6 日に開催の予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、第 32 回日本糖尿病性腎症研究会の開催が 1 年延期されて 2021 年 12 月 4 日～5 日の開催と変更されたことに伴い、本合同委員会の開催も 1 年延期されることとなった。

45. 膵臓移植中央調整委員会/移植関係学会合同委員会/臓器移植関連学会協議会

■膵臓移植中央調整委員会 委員長 栗田卓也
2020 年 10 月 24 日と 2021 年 3 月 31 日に web での委員会を開催した。

- 1) 2021 年 3 月 31 日現在の膵臓移植希望者申請書類受付は 971 件であった。ネットワーク登録済みの待機患者数は 197 件、死体移植済み 415 件、生体移植 4 件、待機中死亡 68 件、取消 96 件であった。
- 2) 昨年より厚生労働省に要望していた臨床膵島移植に係る保険適用化が実現し、本年 2020 年 4 月 1 日より膵島移植が保険適用された。それに伴い、膵・膵島移植研究会の膵島移植適応検討委員会が改定作業を進めていた膵島移植適応判定申請書の改訂案を受け、膵臓移植適応判定申請書も一部改訂 (2020 年 5 月改訂版) を行った。
- 3) 琉球大学、筑波大学、自治医科大学の 3 施設から膵臓移植実施施設の申請があり、審査手続きを進めている。
- 4) 岩本安彦委員が今年度をもって退任し、後任とし

て脇嘉代委員が就任することが承認された。脇委員は引き続き事務局業務も兼務する。

膵・膵島移植に関する常置委員会と連携しながら日本臓器移植ネットワークから移植待機患者のデータを入手して解析することの検討を進めている。

■移植関係学会合同委員会

委員 稲垣 暢也, 岩本 安彦
持ち回り審議にて、2021 年 3 月 12 日付けで腎臓移植実施施設の認定取り下げ (埼玉医科大学国際医療センター) が承認された。

■日本臓器移植関連学会協議会

日本糖尿病学会 世話人 岩本安彦
今年度は開催していない。

46. 糖尿病医療の情報化に関する合同委員会

委員長 谷澤幸生

- 1) 委員会開催 (1 回) : 2020 年 12 月 21 日
- 2) 本合同委員会における本学会向け内規を新たに作成し、2021 年 5 月より一部委員を交代・新体制での活動を開始することについて、臨時理事会 (2021 年 3 月 14 日) にて承認を得た
- 3) 以下、日本医療情報学会との共同企画を開催した
 - ① 第 63 回年次学術集会 : シンポジウム 7 「糖尿病に関する遠隔医療の展開」 (2020 年 10 月 5 日 -16 日 | オンデマンド配信)
 - ② 第 40 回医療情報学連合大会 : 共同企画 4 「パンデミックを含む災害時の糖尿病管理と医療情報」 (2020 年 11 月 19 日 | 現地開催 + LIVE Web 配信)
- 4) 以下、日本医療情報学会との共同企画を開催予定である
 - ① 第 64 回年次学術集会 (Web 開催) : シンポジウム 24 「進化する糖尿病診療の IT 化 —その効果と課題—」 (LIVE 配信期間 : 2021 年 5 月 20 日 -22 日 ※オンデマンド配信もあり)
 - ② 第 41 回 医療情報学連合大会 : 詳細未定 (2021 年 11 月 18 日 -21 日 | 名古屋国際会議場)
- 5) 本合同委員会より派生した「6 臨床学会拡大会議 (日本糖尿病学会/日本高血圧学会/日本動脈硬化学会/日本腎臓学会/日本臨床検査医学会 + 日本医療情報学会)」について
 - ① 今年度は拡大会議を開催しなかった
 - ② 項目セットの商用利用および本拡大会議の継続運営の方法について昨年度より引き続き検討を行っている
- 6) 製薬企業等による患者向けアプリの開発等が活発化していること、またマイナンバーカードの健康

保険証利用の開始と併せてマイナポータルの運用開始もあり PHR に関連する動きが活発化していることを受け、PHR・EHR の連携/各アプリ・サービス間でのデータポータビリティの担保のためには本合同委員会および 6 臨床学会で作成した「コア項目セット」「自己管理項目セット」「Personal Health Record (PHR) 推奨設定」の周知徹底が急務と考え、植木理事長・中島直樹副委員長 (日本医療情報学会) と対応を検討している

- ①現時点では先ず 6 臨床学会拡大会議を開催し、関連学会・官公庁・企業によるコンソーシアムを設立できないかという方向で進めている

47. 糖尿病と癌に関する合同委員会

代表 綿田裕孝

- 1) 今年度は合同委員会を開催しなかった
*アンケート作成小委員会を 2 回開催した (2020 年 7 月 21 日, 2021 年 2 月 19 日)
- 2) 2020 年 6 月の理事改選を受けて、本学会側：植木浩二郎 前代表から代表を交代した
- 3) がん主治医と糖尿病専門医を対象に実施する Web アンケート調査「がん治療中の糖尿病管理に関する調査」について
 - ①日本癌治療学会の協力のもと、がん主治医用 (日本癌治療学会 会員)/糖尿病専門医用 (本学会「MyPage」アンケートを使用) についてそれぞれ [2019 年 10 月 1 日 -31 日] の回答期間で実施したアンケート結果について小委員会を開催し、解析方針について検討した
 - ②小委員会での検討の結果、がん主治医用アンケートの回答率が非常に低かったこと、またその回答者の 7 割強が外科系の医師だったことから、がん主治医用アンケートの結果は“がん主治医のなかで血糖コントロールに熱心な主治医”からの意見が実際の割合よりも強く反映した可能性があり、より多くの内科系のがん主治医からの回答が必要と判断し、日本臨床腫瘍学会にもアンケートへの協力を打診することとした
 - ③日本臨床腫瘍学会：石岡千加史 理事長に宛てて、日本癌学会：中釜斉 理事長/本学会：植木理事長の連名で 9 月に協力依頼文書を送付し、承諾を得た
 - ④日本臨床腫瘍学会でのアンケートを 2020 年 12 月 7 日 -2021 年 1 月 11 日で実施し、その結果をアンケート小委員会で確認した
 - ⑤後藤温委員 (日本癌学会) を中心に 3 学会での

アンケート結果をまとめて頂き、2021 年 4 月 28 日に合同委員会を開催して、委員会報告として論文投稿する方針としている

- ⑥委員会報告論文の作成にあたっては、日本癌治療学会・日本臨床腫瘍学会からも 3 名ずつを拡大委員として選出頂いており、上記次回合同委員会にもご出席頂く予定としている

48. 日本糖尿病病理学療法学会と日本糖尿病学会との実務担当者会議

代表 植木浩二郎

新型コロナウイルス感染症の影響により、2020 年 2 月 24 日の実務者会議の開催が中止となり、ようやく 6 月 23 日に WEB にて開催された。

糖尿病病理学療法学会が作成中の「糖尿病に対する理学療法ガイドライン」への協力依頼があり、CQ 案についてコメントをすることとした。

49. 日本肝臓学会・日本糖尿病学会合同委員会

代表 荒木栄一

2020 年 7 月 18 日 (土) に開催予定であった第 7 回肝臓と糖尿病・代謝研究会は Covid19 感染拡大のため、第 8 回肝臓と糖尿病・代謝研究会として 2022 年 (令和 4 年) 6 月 25 日 (土) 会場：奈良春日野国際フォーラム) に延期となった。

次回、第 7 回研究会 (2021 年 5 月 22 日 (土)、会場：金沢市開催予定、会長：戸邊一之 (日本糖尿病学会)、事務局担当：日本糖尿病学会) に関する合同委員会が 2020 年 9 月 25 日に開催され、プログラム案等について検討がなされた。

延期が決定した第 8 回研究会については、2020 年 7 月開催と同会場、同じ内容で実施することが説明され、日程についても上述の通り説明された。

その他、AMED 研究課題「糖尿病外来における肝細胞癌発生の実態把握」について、投稿論文を revise 中であることが報告され、本件に関し、第 7 回研究会においてプレスリリースを行い、両理事長による理事長声明の時間を設けることとなった。

AMED 研究課題「糖尿病患者における肝細胞癌発生の実態把握とその分子機構」の進捗状況は以下の通りである。

日本肝臓学会・日本糖尿病学会合同の疫学研究「糖尿病外来における肝細胞癌発生の実態把握」は、AMED 研究費を得て、2017 年 1 月より調査を開始した。全国 333 の肝臓学会・糖尿病学会両学会の教育認定施設に対して、調査参加の呼びかけを行い、計 276 件の登録を得た。欠損値等を除いた 246 例について解析を行い、厚労研究岡上班の糖尿病コホート 3358 例を対照に糖尿病外来における肝発癌危険

因子の同定を行った。結果 FIB-4 index が高危険群の囲い込みに有用である事が判明した。本研究結果は、Journal of Gastroenterology, 56 (3), 261-273 に掲載された。また、データクリーニングが完了した暁にはワーキンググループメンバーへのデータセット提供を行う予定である。

50. 日本糖尿病・妊娠学会と日本糖尿病学会の合同委員会
代表 荒木栄一
一昨年度、昨年度に引続き、今年度も委員会を開催しなかった。

51. 高齢者糖尿病の診療向上のための日本糖尿病学会と日本老年医学会の合同委員会

代表 稲垣暢也

- 1) 日本糖尿病学会委員：池上博司，鈴木亮，山内敏正，山田祐一郎，綿田裕孝
- 2) 委員会開催状況：Web 会議 3 回（2020 年 6 月 19 日，10 月 2 日，11 月 27 日）
- 3) 「高齢者糖尿病治療ガイド 2021」を本年 2 月より改訂作業に着手し，両学会同時にパブコメ募集を行い 2021 年 3 月に刊行した。今改訂版から執筆担当者を各章ごとに主担当・副担当を置き，主担当は執筆，副担当は査読を担う形で，両学会の委員が相互に担当した。また実務作業アシスタントとして各委員が指名した執筆協力者（1 名）も作業に加わった。本体価格については前版よりページ数増に伴い両学会で検討し 900 円（前版 800 円）に変更した。

52. 日本循環器学会との合同委員会

代表委員 荒木栄一

- 1) 日本糖尿病学会委員：稲垣暢也，植木浩二郎
- 2) 今年度前期には委員会を開催していない。
- 3) 「糖代謝異常者における循環器病の診断・予防・治療に関するコンセンサスステートメント」の英語版を作成し，2020 年 11 月 30 日に日本糖尿病学会英文誌「Diabetology International」と日本循環器学会英文誌「Circulation Journal」同時にオンライン公開し，その後「Diabetology International」においては Vol.12-No1 (2021 年 1 月) に掲載された。

53. 日本人の肥満 2 型糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術の適応基準に関する 3 学会合同委員会
代表 植木浩二郎

- 1) 日本糖尿病学会委員：稲垣暢也，益崎裕章，綿田裕孝

- 2) Web 会議を 4 回（2020 年 7 月 12 日，9 月 13 日，10 月 3 日，2021 年 1 月）開催した。
- 3) 日本肥満症治療学会からの連携協力の提案を受け，日本肥満学会・日本糖尿病学会 3 学会合同委員会や分科会ごとの会議を開催するなど協議を重ね，「日本人の肥満 2 型糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術に関するコンセンサスステートメント」を策定した。各学会の理事会の承認手続きを経て，3 月 21 日に開催した第 41 回日本肥満症治療学会・第 38 回日本肥満学会学術集会（富山）の合同シンポジウムで公表した。
- 4) 本コンセンサスステートメントは，各学会の学会誌，および日本糖尿病学会英文誌掲載に向け準備を進めている。また書籍としても刊行することが決定している。

〈その他の報告〉

54. 演題登録時の倫理審査についての検討委員会

担当理事 綿田裕孝

- 1) 今年度は委員会を開催しなかった。
- 2) 本年 6 月の理事改選に伴い，担当理事を綿田裕孝常務理事に交代した。
- 3) 第 63 回年次学術集会終了をもって，第 63 回会長校の委員 3 名が退任した。第 66 回会長と委員 2 名の就任により，下記メンバーにて 2020 年度の委員会を発足した。

2020 年度委員

綿田裕孝，池上博司，山内敏正，鈴木 亮，戸邊一之，藤坂志帆，八木邦公，小川 渉，坂口一彦，廣田勇士，西尾善彦，橋口 裕，倉野美穂子

- 4) 研究カテゴリーは昨年と同様の分類で運用することとし，第 64 回年次学術集会の演題募集を 2020 年 10 月 19 日から開始した。
- 5) 2019，2020 年度 2 年間に於いて地方会における移行措置の摘要が承認されているが，引き続き地方会会長に運用に係る周知を行った。また，学会 HP の地方会演題の倫理審査必須化についても 2020 年度版の内容に更新した。
- 6) 昨年同様，今回もホームページ上に質問フォームを設け申請者からの問い合わせに対応すべくタスクフォースを組み輪番制で回答した。問い合わせ件数は減少傾向にある。

55. インスリン発見 100 周年記念シンポジウム実行委員会
担当理事 綿田裕孝

本委員会は，2020 年 12 月 6 日の定例理事会で，植木理事長より，2021 年がインスリン発見 100 周年であることから，本学会も学術団体として「糖尿病の核心に迫る」シンポジウムを開催したいとの提案

が承認され、設立された委員会である。委員は、将来計画委員会の委員ならびに現幹事により構成されている。

2021年1月17日と3月7日に委員会を開催し、シンポジウムの企画等について検討した。その後、3月20日に幹事で打ち合わせをし、具体案について検討した。今後は、2021年11月14日の糖尿病デーにシンポジウムを実施すべく、準備を進める予定である。

3. 「糖尿病学の進歩」開催について

第57回「糖尿病学の進歩」

会 期 2023年2月17日（金）～2月18日（土）（予定）

会 場 東京国際フォーラム（予定）

世話人 馬場園哲也（東京女子医科大学糖尿病センター内科）

※第58回「糖尿病学の進歩」の開催支部が近畿支部に決定した。

4. 2020年度収支決算に関する件

定時社員総会で審議の上、2020年度収支決算書が承認可決された。（本号 p59～p88）。

5. 2022年度事業計画に関する件

定時社員総会で審議の上、2022年度事業計画が承認可決された。（本号 p89～p90）。

6. 名誉会員の推薦に関する件

理事会が推薦した内潟安子会員が定時社員総会において承認された。

7. 次々会長（第67回学術集会）の選任に関する件

学術評議員会にて投票により第67回会長に植木浩二郎会員が選出され、定時社員総会において承認された。

8. 第65回年次学術集会に関する件

2022年5月12・13・14日の3日間、神戸ポートピアホテルほかにおいて開催の予定である。

9. 各種委員会委員の交代等に関する件

任期満了に伴い下記委員会の委員が交代することになった。

1. 「糖尿病」編集委員会

■：2021年度選出（任期：2021年度—2024年度）
無：2019年度選出（任期：2019年度—2022年度）

※2019年5月理事会で承認済

北海道支部	■三木 隆幸 中村 昭伸	王子総合病院 北海道大学
東北支部	■島袋 充生 澤田正二郎	福島県立医科大学 東北医科薬科大学
関東甲信越支部	■大杉 満 ■金澤 昭雄 ■永井 義夫 長坂昌一郎 藤本 啓 目黒 周	国立国際医療研究センター 順天堂大学 関東労災病院 昭和大学 東京慈恵会医科大学 慶應義塾大学
中部支部	■堀川 幸男 神谷 英紀	岐阜大学 愛知医科大学
近畿支部	■浅原俊一郎 ■岩橋 博見 藤田 義人 絵本 正憲	神戸大学 市立豊中病院 京都大学 大阪市立大学
中国・四国支部	■谷口 晋一 奥屋 茂	鳥取大学 山口大学
九州支部	■川浪 大治 益崎 裕章	福岡大学 琉球大学

2. 「食品交換表」編集委員会

■：2021年度選出（任期：2021年度—2024年度）

無：2019年度選出（任期：2019年度—2022年度）

※2019年5月理事会で承認済

北海道支部	横山 宏樹	医療法人社団横山内科 クリニック
東北支部	■山口 宏	山形県立中央病院
関東甲信越支部	■窪田 直人 鈴木 亮	東京大学大学院 東京医科大学
中部支部	井上 達秀	静岡県立総合病院
近畿支部	■橋本 善隆 藤田 征弘	京都府立医科大学 滋賀医科大学
中国四国支部	肥田 和之	国立病院機構岡山医療 センター
九州支部	■下田 誠也	熊本県立大学

3. 「糖尿病治療の手びき」編集委員会

■：2021年度選出（任期：2021年度—2024年度）

無：2019年度選出（任期：2019年度—2022年度）

※2019年5月理事会で承認済

北海道支部	■関口 雅友	札幌厚生病院
東北支部	■村上 宏 五十嵐雅彦	弘前大学医学部 山形市立病院 済生館
関東甲信越支部	■河合 俊英 関 直人	東京都済生会中央病院 国立病院機構千葉東病 院
中部支部	石塚 達夫	岐阜市民病院
近畿支部	■山根 俊介 河盛 段	京都大学 大阪大学
中国四国支部	中塔 辰明	岡山済生会総合病院
九州支部	■中村 宇大	製鉄記念八幡病院

10. 2021年度選挙管理委員会委員承認について

細則第44条により、下記の様に承認された。

北海道支部	三木 隆幸	王子総合病院
東北支部	檜尾 好徳	仙台市立病院
関東甲信越支部	曾根 博仁	新潟大学

中部支部	榊原 文彦	住吉町クリニック
近畿支部	豊田 長興	関西医科大学
中国・四国支部	村尾 孝児	香川大学医学部
九州支部	本島 寛之	熊本大学病院
会長経験者	前川 聡	滋賀医科大学

11. 「糖尿病学の進歩」運営委員会委員について

細則第48条④および「糖尿病学の進歩」運営委員会規定により、下記の様に決定された。

第55回「糖尿病学の進歩」世話人	斎藤 重幸
第56回「糖尿病学の進歩」世話人	大澤 春彦
第57回「糖尿病学の進歩」世話人	馬場園哲也
第64回年次学術集会会長	戸邊 一之
第65回年次学術集会会長	小川 渉
学術担当常務理事	荒木 栄一
庶務担当常務理事	綿田 裕孝
会計担当常務理事	中村 二郎

12. 学会後援について

申し込みのあった4件を後援することとした。

1. 第64回春季日本歯周病学会学術大会（2021年5月21日～6月22日）Web
2. 第55回日本理学療法学術研修大会2020in おおい（2021年5月29日・30日）Web
3. 栄養の日・栄養週間（2021年8月1日～7日）栄養ワンダー 2021（全国）・Web
4. 第38回糖尿病 Up・Date 賢島セミナー（2021年8月28, 29日）志摩観光ホテル

13. その他

専門医制度規則の改訂が学術評議員会において承認された。

以上 文責 庶務担当常務理事 綿田裕孝